

コンポストを可視化!?分解アニメーション付きスマートコンポスト

背景

福祉施設や学校では、障害のある方や子どもたちが社会や環境とつながる体験が不足している。一方、日本はごみ焼却量が世界最多。生ごみの約80%が水分で、環境負荷も大きくなっている。今、誰もが参加できる「循環の体験」が求められている。

福祉施設の現状

- 子供や障害のある人：
- 色や形など視覚的な変化への興味
 - 施設内でのアクティビティのマンネリ化

生ごみ処理
コスト大

コンポスト

- 難しい
- 地味

課題

コンポストを可視化

- 失敗しにくい
- 視覚的に楽しめる
- 施設内での交流の機会創出

Point 1

職員が、施設内で障害のある方や児童と一緒に活用できる！
→福祉施設での交流増進

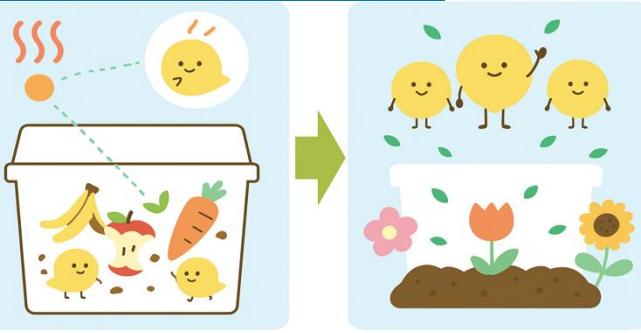
Point 2

・分解の進行を色やアニメーションで可視化し、自然とのつながりや環境への関心を育む活動を提供！
→環境学習の促進

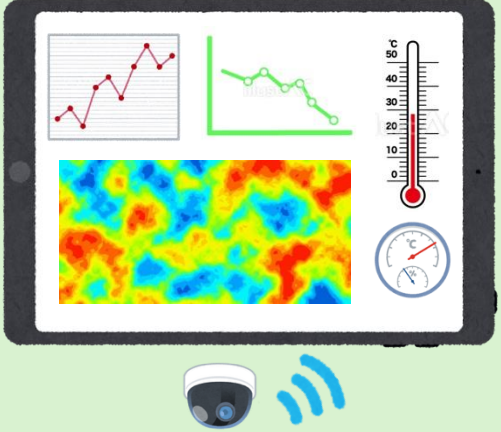
Point 3

利用者の得意な感覚(色・形・動き)を活かしながら、
コンポストの分解過程と視覚的・体験的に伝えることができる！
→「得意」を活かす

アニメーションイメージ図



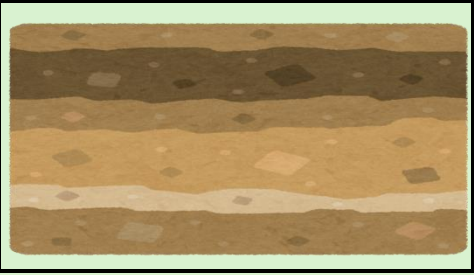
微生物のキャラクターたちが野菜や果実たちを分解していく



- ・センサーで温度や湿度、不純物を感知
- ・画像認識からAI生成でキャッチーなアニメーション、タイムラプスなどを作成

タブレット端末やテレビ等の画面に表示

- ・視覚的に楽しむことができ飽きにくい
- ・不純物を取り除けるので失敗しにくい



マーケット構造

1. 導入先
福祉施設（障害者支援・高齢者施設）
特別支援学校・小学校
地域子育て支援団体
環境NPO・市民団体
2. 資金提供者
公的助成・民間財団
クラウドファンディング
3. 社会的インパクト
SDGs達成への貢献
地域資源循環・環境意識の向上

収益・資金調達

- ・教材キット販売
- ・ワークショップ開催
- ・助成金/補助金
- ・クラウドファンディング

開発・運用費用

- ・センサー/教材キットの試作
- ・アニメーション制作
- ・調査/フィールドワーク
- ・プロトタイプ導入
- ・利用者フィードバック収集

導入施設の負担軽減

持続可能なモデルへ

補助金申請支援
段階的導入
(キットのみ→センサー連携)